

遺伝子組換え（GM）作物は安全に使用されて来た歴史があり、様々なベネフィットをもたらします。

望ましい形質を植物に導入するという遺伝子工学の利用法は 25 年以上も前に開発され、1994 年に初めて商品化されました。GM 作物は除草剤耐性、害虫抵抗性、製品品質の向上などの形質を発現することで、農家や消費者、環境に様々なベネフィットをもたらします。すべての GM 作物は食品、飼料、栽培用として認可される前に、徹底的な安全性評価を受けています。

GM 作物はこれまで数十年にわたり人や動物に摂取されてきましたが、健康や安全性上の問題が確認されたことは一度もありません。

## 技術革新と一貫性

規制審査（安全性評価）は国際的に受け入れられた、科学的根拠に基づくガイドラインのもと、人や家畜、環境に対する安全性を保証するために行われます。しかし、一部の規制当局はガイドラインから外れ、認可を求める作物開発者へのデータ要求事項を増加させています。

このことにより技術革新が妨げられ、安全性上のベネフィットがないにもかかわらず、規制の不確実性がもたらされています。データが増えても、

消費者や環境に対する製品の安全性が高まるわけではありません。

25 年以上にわたって安全に使用されてきた歴史と、農家や消費者、環境にもたらす数多くのベネフィットを鑑みて、今こそ GM 作物の安全性評価プロセスを見直し、合理化をする時です。実際、GM 作物の規制制度のすべてではないにしても大部分の基盤となっている国際基準（コーデックス）には、「[...] 作業の重複を避けるために、必要に応じて、他の規制当局によって実施されたリスク評価の結果を使用してもよい。」と明記されています。この声明に基づき、世界の規制とデータ要求事項を調和させるために地域間で科学を共有することは、規制要求事項の相違や認可時期のずれによって生じる課題に対する解決策となります。

**GM 作物の認可には平均で 13 年かかり、これは新薬の認可にかかる時間（平均 12 年）より長い。**

(U.S. Farmers & Ranchers Alliance)

## GM 作物に対するデータ要求事項の調和によるベネフィット

### 規制機関：

- 既存の安全性評価とデータ提出の豊富な経験を活用することができます。
- 政府のリソースを他の分野に集中させることが可能になります（例：研修、知識共有、省庁間/内コラボレーション）。
- GM 作物を導入し始めた国における新たな規制制度のための枠組みを提供します。
- 国連の持続可能な開発目標（SDGs）の達成に貢献します。

### 消費者：

- 生産コストの削減と収量の増加により、国および地方の経済成長と安定を享受できます。
- 食料価格の低下と安全で安定した食料供給を通じて、世界の食料と栄養の安全保障から恩恵を受けられます。
- 栄養成分が強化された食品や保存期間の長い作物など付加価値のある製品を購入することで、食品廃棄物を減らすことができます。
- 持続可能な方法で生産された製品を選ぶことで、環境保護に貢献できます。

### 農家：

- 環境に有益で、天然資源を保全する持続可能な農業慣行の導入を促進し、農家が気候変動へ適応し、緩和することを支援します。
- 収量増加によって農村経済の所得が増加します。
- より多様な形質や作物が農家へ提供されるようになります。

### 開発者：

- 製品開発コストと時間を削減し、中小企業や公的機関の開発者が市場に多様な農業技術革新をもたらすことを可能にします。
- 新しい作物や形質の開発に取り組む際のコスト面での障壁が低下します。
- 製品の発売スケジュールをより予測しやすくすることで、リソースの合理化、特許の保護、リソースの適切な配置/割り当てを可能にします。